



「男性のケアの力」をめぐって



京都大学名誉教授 大阪大学名誉教授 伊藤 公雄

最近、フェミニズムの重要なテーマとして「ケア」が急浮上している。「ケア」という課題が現代社会におけるジェンダー問題を考える上で極めて重要だということが明らかになったからだ。近代産業社会の成立以後、ケア労働は、しばしば「無償」の労働（もっと言えば、身の回りの人たちに捧げる「愛の労働」）として、多くは女性によって担われてきた。人間の生活にとって不可欠な労働であるこのケア（時には24時間労働になる）労働だが、男性主導の近代産業社会では、低い評価しか与えられてこなかったのだ。

たとえば、コロナ禍において「エッセンシャルワーカー」問題が顕在化したことは記憶に新しい。看護や介護など、人間社会を支える基本的な労働の重要性が語られるようになったのである。しかし、これまでこうしたケア労働の領域は、女性の「無償労働」によって支えられることも多く、賃金労働であっても低い収入しか確保できない場合がしばしば見られる。ここにも近代社会が生み出したジェンダー問題が潜んでいる。

だからこそ、この「ケア」という視座から社会を見直し、ケアとその担い手に対するきちんとした評価の必要性が改めて問われているのだ。ケアの視点からのデモクラシーの再生という声も生まれつつある。

繰り返すが、「ケア」の問題は、女性の問題として、これまで語られてきた。これを男性の側から見たらどんな課題が見えてくるだろうか。

男性の多くは、女性によるケア労働をほとんど「空気のような存在」として無自覚に受容してきたと言えるだろう。実際は、女性のケア労働がなければ、日常生活から職場における労働まで、「自分一人ではできない」ことが多いのに、男性たちにはこうした労働は、「影の労働」「見えない労働」であり続けてきた。

その意味で、ジェンダー平等社会を構築するには、男性にとっての「ケア」の問題を考えることは、重要な契機になると思う。

ところで「ケア」とは何だろう。育児・介護や看護がすぐ連想されるだろう。ただここで、「ケア」という視点をもっと広げて見れば、「自他の生命・身体・気持ちに対する十分な配慮と、それに基づいた行為」といった整理の仕方ができるのではないかな。

こんな風に「ケア」ととらえると、男性の多くがケアの視点を欠如させているということが、現代社会において、重要な意味を持っていることが見えてくる。例えば、今、ウクライナやパレスチナで生じている「戦争」・「戦闘」の現実だ。なぜこんな残虐行為ができるのかと言えば、男性の政治指導者の多くに「ケア」の視点が欠けているからではないかな。

というわけで、5、6年ほど前から「男性のケアの力」の必要性について書いたり喋ったりしてきた。何よりも、男性が「ケアする力」を身につけることがまずは第一の課題だ。女性の「見えない労働」に依存してきた男性たちにとって、ケアの実践は、ケアの大変さや重要性に気がついてもらうための重要な契機になるだろう。また、男性のケア実践は、家庭や地域、職場における「男性支配の構造」を切り崩し、より対等な人間関係の基礎を生み出す可能性さえある。

と同時に、「男性のケアをされる力」も必要なのではと考えている。多くの男性たちは、「ケアされるのはあたり前」と考えている。ケアに支えられているのに「自立している」と思い込んでいる場合もある。だから、ケアの存在に気が付かないし、ケアされても感謝もしない。高齢男性のケアが大変なのは、男性のケアを受け入れる力の欠如からきているのだろう。

「男性のケアの力」という視点から、次の社会を構想することが、今、問われている。

モンゴルとジェンダー

宇野 伸浩 (広島修道大学 国際コミュニティ学部教授)

モンゴルの遊牧民の伝統文化は、ジェンダー平等から遠いように見えるかもしれない。遊牧生活の中で男女の役割分担がはっきりしていて、ヒツジやヤギなどの小型家畜は、女性や子供が世話をする。遊牧民にとってのステータスでもある馬の世話は、男性が担当する。天幕の中は、入り口のある南に向かって左側が女性の空間で、右側が男性の空間であり、家庭内の空間さえも男女で分けられているのである。台所用品は女性側にあり、馬の鞍は男性側にある。現代のジェンダー感覚からすれば、男女差別と言われるかもしれない。

しかし、モンゴル人は、伝統的に女性が男性に差別されてきたとは必ずしも思っていないだろう。モンゴルの遊牧社会では、女性と男性には別々の役割があると考えられているからである。また家庭では、怖い父親より優しい母親に人気があり、男性でも女性でも自分を育ててくれた母親をととても大切に思っている。

モンゴルの伝統的な歌には母親を歌った歌は数多くあるが、父親を歌った歌は少ないと言われる。モンゴルの歌「ミニー・サイハン・エージ（私の素晴らしいお母さん）」には次のような歌詞がある。「私の母 素晴らしい母 絹糸のような優しい柔かな母 間違いをすれば厳しい母 白髪になった今も 指針となる母」（訳：モン関西）。モンゴル人にとって慈愛に満ちた母親は、尊敬すべき存在なのである。母親は国家からも名誉を与えられる。モンゴル国の制度では、5～7人の子供を育てた母親に第二母親勲章、8人以上の子供を育てた母親に第一母親勲章が授与される。合計特殊出生率は、社会主義時代に5.0を超えていた時期もあったが、市場経済移行後は減少し、2021年には2.84である。

モンゴルの家族の伝統文化として特徴的であるのは、養子が多いことである。モンゴル人は、養子に出したり貰ったりすることを隠したりはしない。子供を必要としている人がいれば自分の子を養子に出すし、子供を育てられない人がいれば、自分に子供がいても養子をもろう。モンゴルは、誰もが望めば子供を育てることができるし、育てるのが難しければ誰かが引き受けて育ててくれる社会なのである。このモンゴルの柔軟な育ての文化を支えているのはモンゴルの女性たちであり、その背景には、子供を労働力として必要とする遊牧生活があった。

モンゴルの伝統文化で母親が重視されるからと言って、女性が子育てのために仕事をしていないわけではない。社会主義時代には男女の区別なく労働者であることが評価され、女性の社会進出が進み、1985年に全労働者中の51.3%が女性であった。その後、市場経済移行期のモンゴル国では、悪化した経済状況の中で多くのモンゴル人が困難に直面したが、都市部では男性より女性の方が現実に早く適応し、女性に比べて男性の失業が多くなり、家庭で尊厳を失った男性の家庭内暴力が増加して社会問題化した。

そのようなモンゴル国で、2011年にジェンダー平等推進法が施行された。モンゴル国ではすでに女性の社会進出は進んでいたが、男女の性的役割分野には根強いステレオタイプがあるとされている。徴兵制度があり男性のみに1年の兵役義務がある。家庭においては、雇用労働に従事する女性が家事や育児の負担を担っていることが多い。この10年間の出生数が、地方では微減であるが、首都ウランバートルでは年に約4万人から約3万人へ減少したことは、その問題を反映しているように見える。一方、国政への女性の参加については、以前国政は男性の領域と考えられ、国会議員の女性比率は多い年でも10%程度だったが、現在は国会76議席中13人が女性議員であり17.1%と女性比率が上昇しており、とくに首都ウランバートル市選出の議席では、28%が女性議員である。教育分野では、高等教育の女性就学率が男性より高く、女性の高学歴化が進み、2023年のデータでは大学進学者・大卒者の6割が女性である。公務員の66%が女性であることは、女性の高学歴化が反映している。今後、都市部を中心に女性の社会的役割が増していくと思われるが、地方の遊牧地帯では伝統的なモンゴル女性の姿が残っていくだろう。



2006年にモンゴル国の草原で出会った遊牧民一家

2024年度事業計画

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

1

ジェンダー問題に関する調査・研究

第2期プロジェクト研究会(2018年度～2020年度)の研究成果として、2022年度に『ジェンダー研究が拓く知の地平』を出版した。引き続き第3期プロジェクト研究会に向けて研究テーマ等を検討する。

4

ジェンダー問題に関する年報、ニュースレター及び書籍の発行・出版

- (1) 年報『ジェンダー研究』第27号を発行する。構成は、依頼論文・公募論文などとする。
- (2) 東海ジェンダー研究所の広報紙としてニュースレター『LIBRA』を位置付け、年3回発行する。

5

ジェンダー問題に関する資料・文献の収集と情報提供

- (1) 研究図書・ジェンダー問題研究推進に必要な図書等の購入、寄贈図書の受入及び資料の整理
- (2) 研究動向・研究情報ニュースの収集(関係諸機関との提携等による)

6

セミナー室の貸出

ジェンダー問題に関する研究会・研修会の利便に資するため、登録団体にセミナー室を貸し出す。

7

共催、後援及び他団体との連携

- (1) 名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ(GRL)の運営と発展に、GRL運営小委員会等のメンバーとして関与する。また、東海ジェンダー研究所借用のGRL会議室をジェンダー問題に関する研究会等に利用する。
- (2) 他団体から申し出があれば、検討の上、共催事業の開催や事業の後援を行う。
- (3) (公財)あいち男女共同参画財団との連携を図るため、理事会及び「あいち女性連携フォーラム」に参加する。
- (4) 名古屋市男女平等参画推進会議(イコールなごや)に参加する。

2

ジェンダー問題に関する研究への助成

- (1) 個人研究助成
若手研究者を対象に、ジェンダー問題に関する研究計画を公募する。
研究テーマは、従来通り「自由論題」で募集する。
・募集期間 2024年4月15日～5月末日
・募集人数 若干名
・個人研究助成審査委員会を開催し、受託者を決定する。
・受託者には、①翌年度の個人助成受託者報告会への参加 ②所定の期日までに研究報告書の提出を義務づける。研究論文は年報『ジェンダー研究』に投稿することが望ましい。

- (2) 団体研究助成
団体を対象にジェンダー問題に関する研究計画を公募する。
募集は単年度ごとに行い、分野を問わない。
・募集期間 2024年4月15日～5月末日
・募集団体 若干団体
・団体研究助成審査委員会を開催し、受託団体を決定する。
・助成を受けた団体には、所定の期日までに ①研究活動報告 ②収支決算実績報告書の提出を義務づける。

3

ジェンダー問題に関するシンポジウム、フォーラム等の開催

- (1) ジェンダー問題に関する国際講演会を開催する。
- (2) 個人助成受託者報告会を開催する。
- (3) 海外調査派遣報告会を開催する。
- (4) 賛助会員の交流の場として、「賛助会員のつどい」を公開して開催する。

8

ジェンダー問題に関する意識の啓発・普及を増進させるための内外の機関又は団体への援助

名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリへ2024年度分の運営資金を寄附するとともに、図書・資料の寄贈を継続して行う。

INFORMATION

お知らせ

2024年度 国際講演会

日 程：2024年8月5日（月）13：20～16：30
講 師：エステル・フリードマンさん
（スタンフォード大学名誉教授）
テーマ：セクシュアルハラスメント：アメリカ女性のオーラル・
ヒストリー（口述歴史）における沈黙と語り
会 場：名古屋都市センター 14F 特別会議室
詳細はホームページをご覧ください。

2024年度 賛助会員のつどい（公開）

映 画『八十七歳の青春－市川房枝生涯を語る－』の鑑賞
と解説
日 程：2024年11月16日（土）午後
講 師：佐藤ゆかりさん（三重の女性史研究会 会長）
会 場：名古屋国際センター別棟ホール
詳細が決まりましたら、チラシやホームページでもお知らせし
ます。

公益財団法人東海ジェンダー研究所 2024年度 役員名簿

役職名	氏 名	所 属	役職名	氏 名	所 属
代表理事	西山 恵美	元愛知学泉大学教授	評議員	青木 千賀子	元日本大学大学院 国際関係研究科教授
業務 執行理事	日置 雅子	愛知県立大学名誉教授	評議員	香川 せつ子	西九州大学名誉教授
理 事	青木 玲子	元国立女性教育会館 客員研究員	評議員	佐藤 俊郎	環境デザイン機構 取締役
理 事	新井 美佐子	名古屋大学大学院 人文学研究科准教授	評議員	中嶋 豊	弁護士
理 事	石田 好江	愛知淑徳大学名誉教授	評議員	萩原 久美子	桃山学院大学社会学部教授
理 事	小川 真里子	三重大学名誉教授	評議員	的場 かおり	大阪大学大学院 法学研究科教授
理 事	尾関 博子	元名古屋市職員	評議員	來田 享子	中京大学スポーツ科学部・ 大学院スポーツ科学研究科教授
理 事	武田 貴子	名古屋短期大学名誉教授	顧 問	水田 珠枝	名古屋経済大学名誉教授
理 事	別所 良美	名古屋市立大学名誉教授	顧 問	安川 悦子	名古屋市立大学名誉教授
監 事	島 けい子	税理士			
監 事	榮枝 るみ	税理士			

（所属は2024年7月1日現在）

賛助会員を募集しています。

賛助会費 年間 一口 1,000円
振 込 先 郵便振替口座 00820-0-77338
公益財団法人東海ジェンダー研究所
（振込手数料は当方負担）

他行からお振込みの場合

銀 行 名 ゆうちょ銀行
店 名 〇八九
預金種目 当座
口座番号 0077338
（振込手数料はご負担ください）

- * 会員の皆様には当研究所の年報「ジェンダー研究」やニューズレター「LIBRA」、講演会などの事業のご案内をお送りします。
- * 当研究所は公益財団法人の認定を受けており、会費及び寄付については税法上の優遇措置があります。

編集後記

多くの男性に「ケアする力」が必要であると同時に、「ケアされる力」も大切だということ。人として当たり前のこと気づくことが、まずは第一歩のような気がします。モンゴルでは、都市部と地方では格差があるようですが、女性の高学歴化や社会進出、議員数の増加など、想像以上に進んでいるようですね。

LIBRA

公益財団法人 東海ジェンダー研究所

〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-19 ミズビル6F

T E L 052-324-6591 F A X 052-324-6592

E-mail info@libra.or.jp <https://libra.or.jp/>